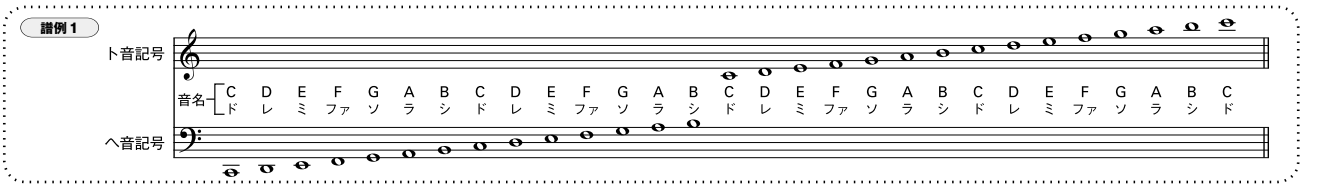
分からないマークはここで確認!

譜面の読み方

こちらでは、譜面の基本的な読み方と、主な記号の意味をまとめて解説！譜面を見ていて分からない表記などが出てきたときは、このページで確かめてしっかり理解しよう。

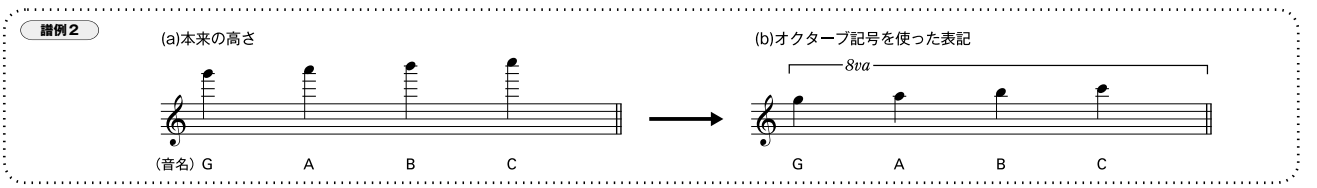
五線上の音の高さ

五線譜は、音符の位置が音の高さを表わしている。ボーカルやギター、キーボードの高音域などは“ト音記号”、ベースやキーボードの低音域などは“ヘ音記号”を使用する。また、音名は主に英語（CDEFGAB）、もしくはイタリア語（ドレミファソラシ）の表記を使用する。



オクターブ記号

加線（五線外の音を表わすために加えられる線）が多い音は、ちょっと見ただけでは音の高さが分かりにくいので、“オクターブ記号”を使って表わす場合が多い。この記号が書かれた音は、記されている音の1オクターブ上の音を弾こう。



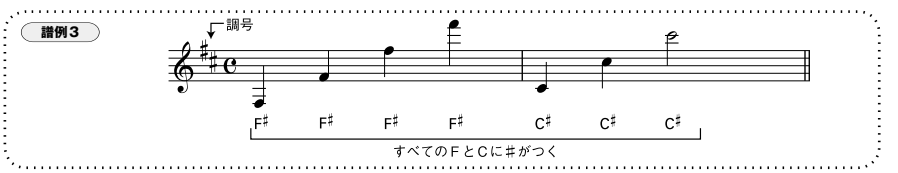
変化記号

音の高さを半音上下させる記号を“変化記号”と呼び、Key（調）を表わす“調号”と、一時的に音の高さを変える“臨時記号”という使い方がある。

記号	名称	意味
♯	シャープ	半音高くする
♭	フラット	半音低くする
♮	ナチュラル	変化した音を元の高さに戻す

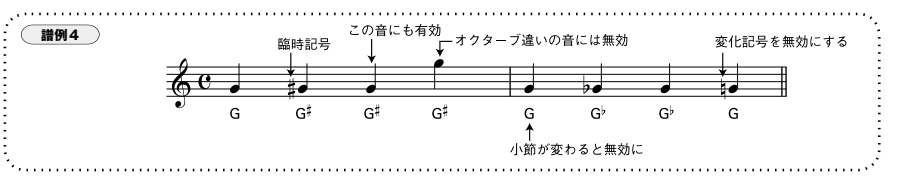
◆調号

音部記号（ト音記号またはヘ音記号）のすぐ右側に書かれる♯または♭の記号。この調号として書かれている変化記号は、すべての小節内でオクターブの違う音にも効力を持つ。



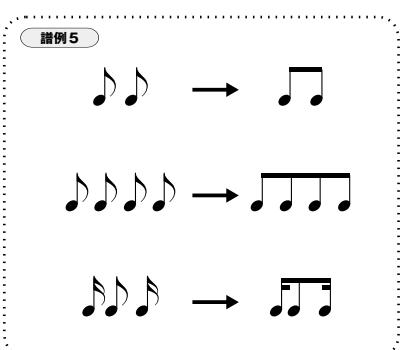
◆臨時記号

音符のすぐ左側に書かれる変化記号。同じ小節内ではその後に出てくる同じ高さの音にも効力を持つが、オクターブの違う音には無関係。小節が変わると無効になる。



音符と休符の長さ

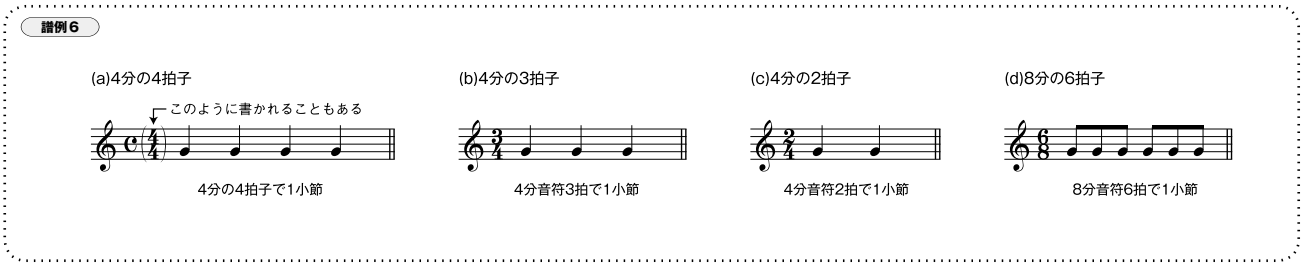
音符は玉の白黒と形状が長さを表わし、「はた」が多いほど短い音を表わす。表は主な音符と同じ長さの休符をまとめたものだ。8分音符や16分音符の連続は、譜例5のように音符を繋いで表わす。



音符名	五線上の表記	音の長さ（拍）	同じ長さの休符
全音符	𝅝	4	𝄻
付点2分音符	𝅗𝅥.	3	𝄼
2分音符	𝅗𝅥	2	𝄼
付点4分音符	♩.	1.5	𝄽.
4分音符	♩	1	𝄽
2拍3連符	♩♩♩ (3)	2/3 2/3 2/3	𝄽 𝄽 𝄽 (3)
付点8分音符	♪.	3/4	𝄾.
8分音符	♪	1/2	𝄾
3連符	♪♪♪ (3)	1/3 1/3 1/3	𝄾 𝄾 𝄾 (3)
16分音符	𝅘𝅥𝅯	1/4	𝄿

拍子記号

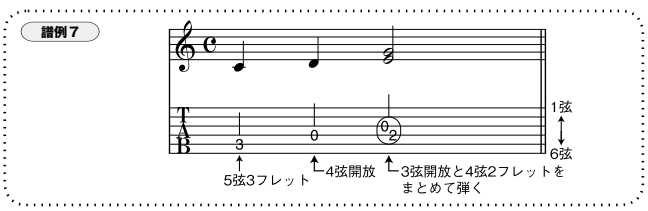
一定の拍数によるリズムの区切りを“拍子”といい、楽譜の最初に拍子記号で示される。分数の表記の場合、分母は1拍に数える音符の種類、分子は拍数を表わす。なお、4分の4拍子は分数の表示より「C」の記号が使われる事が多い。譜例6は主な拍子記号の例。



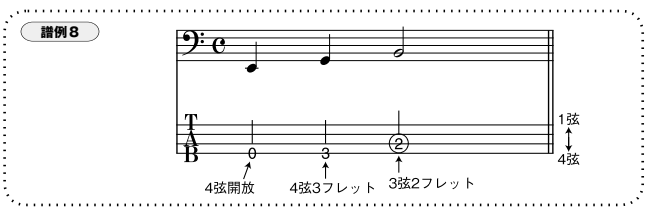
タブ譜の見方

ギターとベースの“タブ譜（タブラチュア）”は、横線が弦を表わし、音符の玉の代わりにフレット番号が書かれる。つまり、譜例7と8のようにギターとベースではタブ譜の線数が異なっているので注意。なお、数字の「0」は開放弦を表わし、白玉の音符は数字を○で囲む。

◆ギターのタブ譜

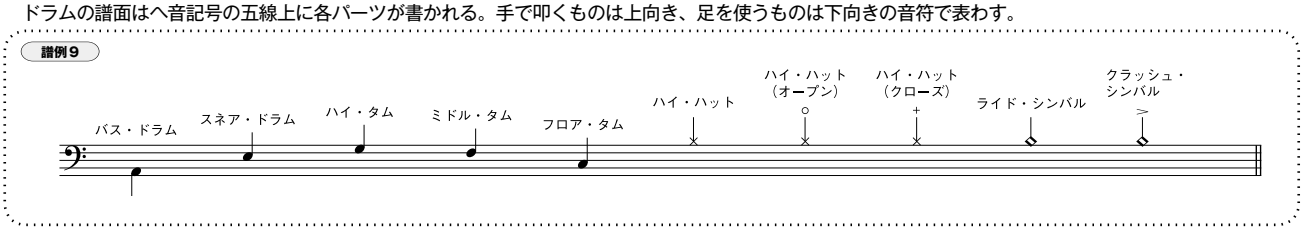


◆ベースのタブ譜



ドラム譜の見方

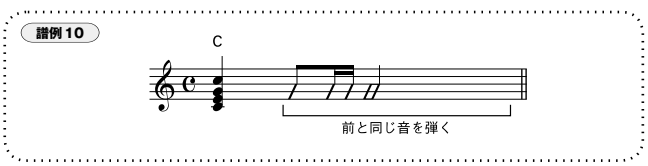
ドラムの譜面はヘ音記号の五線上に各パーツが書かれる。手で叩くものは上向き、足を使うものは下向きの音符で表わす。



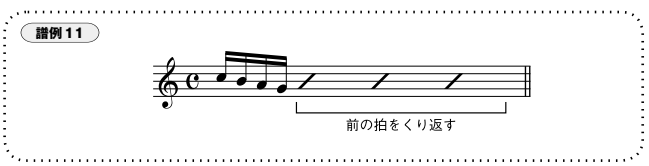
省略記号

同じ音をくり返し弾くときは、次のように省略して書かれることが多い

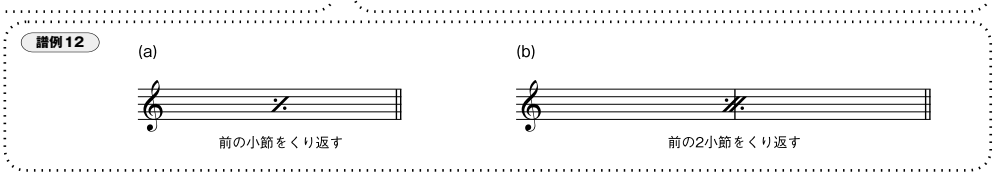
◆リズム符による音符の省略



◆拍単位のくり返し記号



◆小節単位のくり返し記号



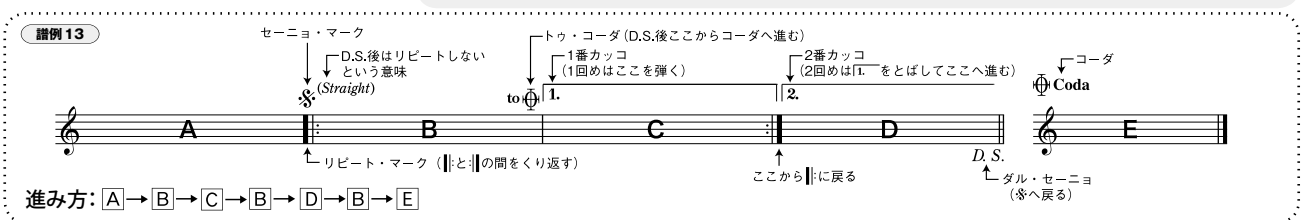
反復記号

譜面上のある範囲をくり返し演奏するときは、次のような反復記号が使われる。

𝄆 𝄇（リピート・マーク）・・・・・・𝄆と𝄇の間をくり返す

D. S.（ダル・セーニョ）・・・・・・ここから𝄋（セーニョ・マーク）へ戻る

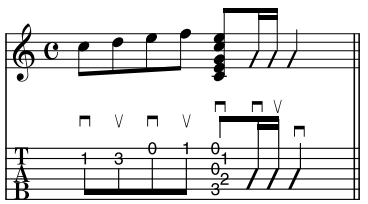
to ⊕（トゥ・コーダ）・・・・・・ここから⊕ Coda（コーダ）へ進む



演奏記号

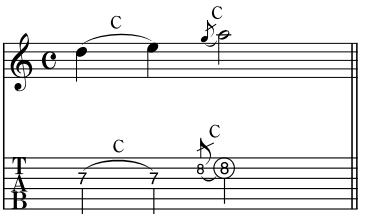
次に、こちらのページには、ギターで使われるテクニックを表わす演奏記号をまとめた。
ベースにも同じ記号が使われるので、１つひとつを参考にして欲しい。

●ピッキング



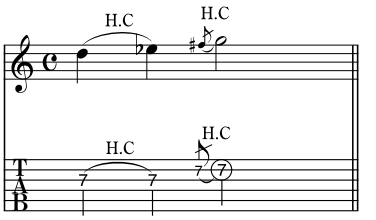
Πはダウン・ピッキング（上から下へ弾く）、Vはアップ・ピッキング（下から上へ弾く）。ストロークにも同じ記号が使われる。

●1音チョーキング



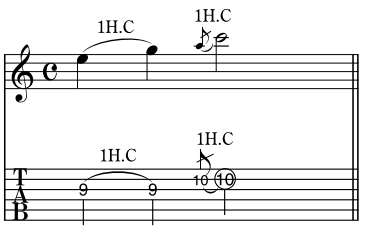
弦を押し上げ（または引き下げ）て、1音（2フレット分）音を高くするチョーキング。

●半音チョーキング



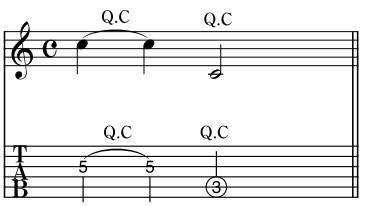
半音（1フレット分）音を高くするチョーキング。

●1音半チョーキング



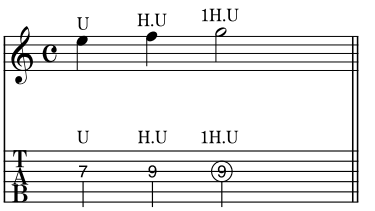
1音半（3フレット分）音を高くするチョーキング。他に2音チョーキング（2C）、2音半チョーキング（2H.C）などもある。

●クォーター・チョーキング



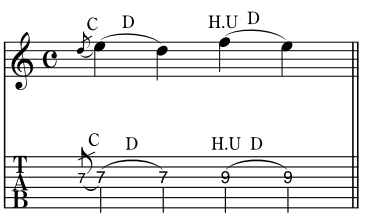
半音より低めの音程のチョーキング。ブルー・ノート本来の音程を表現するために用いられる。

●チョーク・アップ



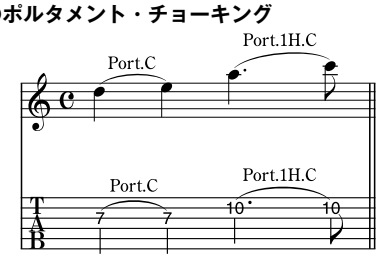
チョーキングした状態を表わす。チョーキングの音程によって1音（U）、半音（H.U）、1音半（1H.U）などの種類がある。

●チョーク・ダウン



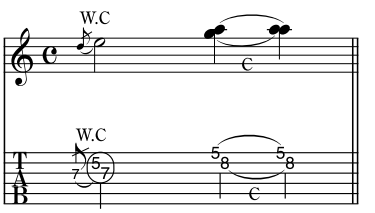
チョーキングを戻して音を低くする。チョーキングの音程にかかわらず、完全に弦を戻すときは「D」の記号で表わす。

●ポルタメント・チョーキング



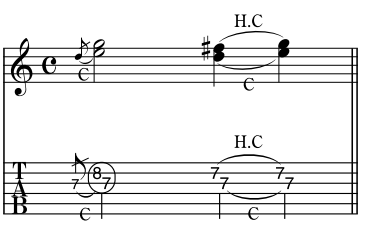
なだらかに音を高くしていくチョーキング。チョーキングした弦を戻す"ポルタメント・チョーク・ダウン（Port.D）"もある。

●ダブル・チョーキング



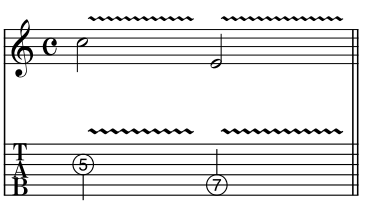
チョーキングを用いて2本弦を同じ高さにする。"ユニゾン・チョーキング"とも言う。

●ハーモナイズド・チョーキング



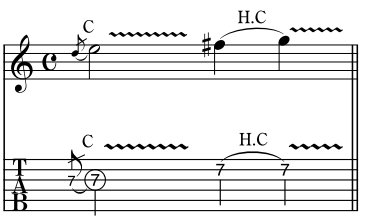
チョーキングを絡めて2本以上の弦でハーモニーを形作る奏法。

●ビブラート



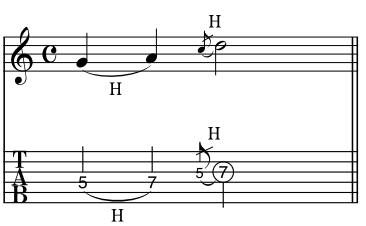
チョーキングとチョーク・ダウンをくり返して音を振るわせる。

●チョーキング・ビブラート



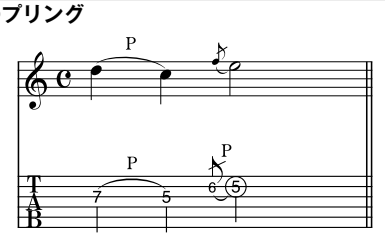
チョーキングした状態を保ちながらビブラートをかける。

●ハンマリング



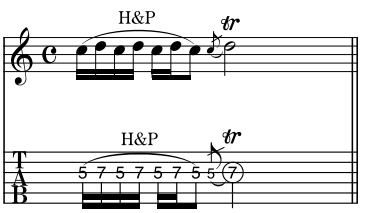
弦を叩くように押さえて音を高くする。

●プリング



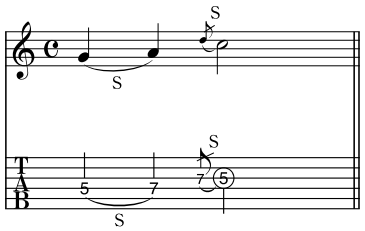
弦をハジくように指を離して音を低くする。

●トリル



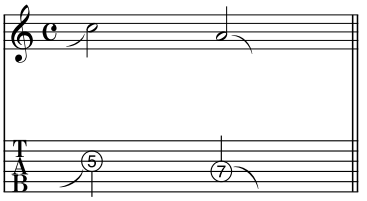
ハンマリングとプリングをくり返して音を連続させる。譜例はリズムが決まっているときとそうでないときの例。

●スライド



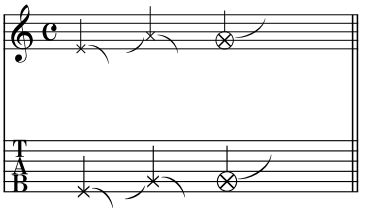
弦を押さえた指を滑らせるように移動させて音の高さを変える。

●グリッサンド（グリス）



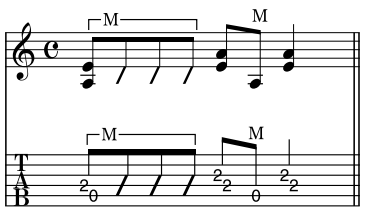
弾き始め、または弾き終わりの音の高さが特定できないスライド。

●ノイズ・グリス



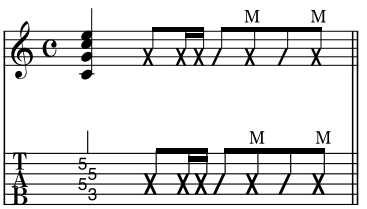
音程が特定できない効果音的なグリッサンド。

●ブリッジ・ミュート



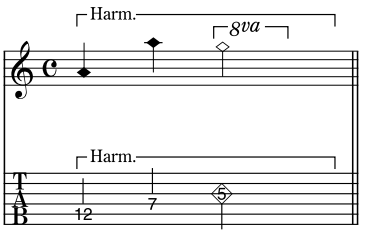
右手のヒラの小指側でブリッジ近くの弦を軽くミュートして弾く。

●ブラッシング



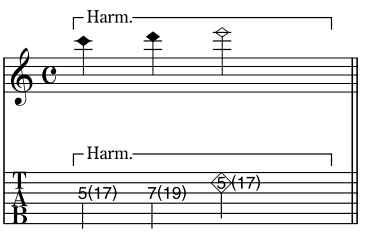
左手でミュートした弦をハジいてパーカッシブな効果音を鳴らす。ブリッジ・ミュートと併用することもある。

●ハーモニクス



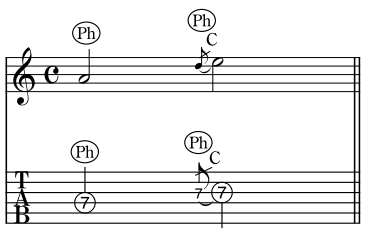
5・7・12フレットなどで弦に指を触れさせてピッキングして倍音を鳴らす奏法。“ナチュラル・ハーモニクス”とも言う。

●アーティフィシャル・ハーモニクス



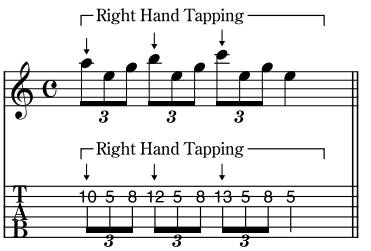
左手で押さえた位置より12フレット上（カッコ内のフレット上）で、弦に右手の指を触れさせながらピッキングしてハーモニクスを鳴らす。“人工ハーモニクス”とも言う。

●ピッキング・ハーモニクス



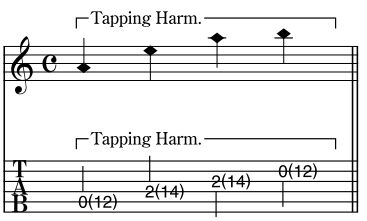
ピッキングする瞬間に右手親指の先を弦に触れさせてハーモニクスを鳴らす。

●ライトハンド・タッピング



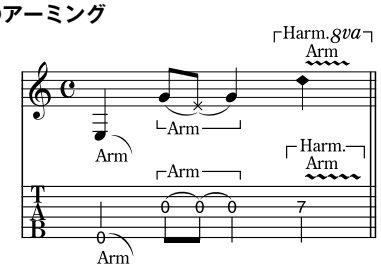
ハンマリングのように右手の指を弦に叩きつけて音を出す（↓の音）。

●タッピング・ハーモニクス



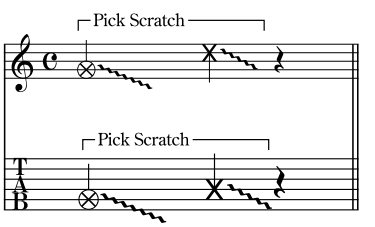
左手で押さえた位置より12フレット上などで、弦を右手の指で叩くことでハーモニクスを鳴らす。

●アーミング



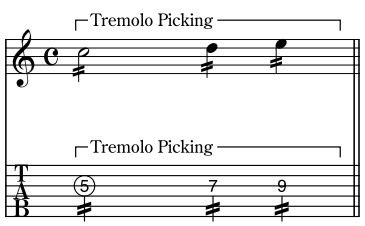
トレモロ・ユニットのアームで音程を変化させる奏法。音を低くする“アーム・ダウン”、もとの高さに戻す“アーム・リターン”、ビブラートを掛ける“アーミング・ビブラート”などがある。

●ピック・スクラッチ



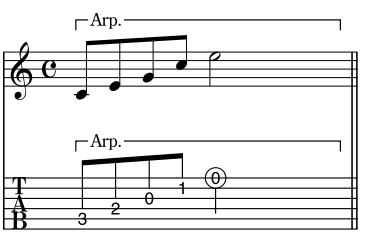
低音弦上でピックをこすりつけるようにして、効果音を鳴らす奏法。

●トレモロ・ピッキング



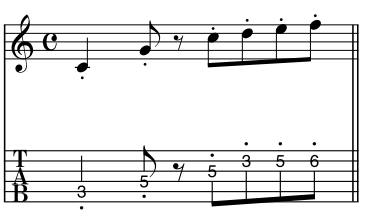
ダウンとアップのピッキングを素早くくり返して音を持続させる。

●アルペジオ



前に弾いた音を鳴らしたまま次の音を弾く奏法。

●スタッカート



音符本来の長さより短く音を切る。